

風火害

台風大国、日本。集中豪雨による被害を最小限にとどめるためには、住んでいる地域のことをしっかりと知り、気象予報などで十分な情報を得るようにしましょう。

Japan is often struck by typhoons every year. It is good way to minimize damage caused by a local downpour that we grasp information about an area where you live and of current weather.

窓には板などを打ちつけて、飛来物で破損するのを防ぎましょう。

物干し竿などは屋内に入れて、飛ばされないようにしましょう。

ブロック塀などにひび割れが入っている場合は、早めに修理しましょう。

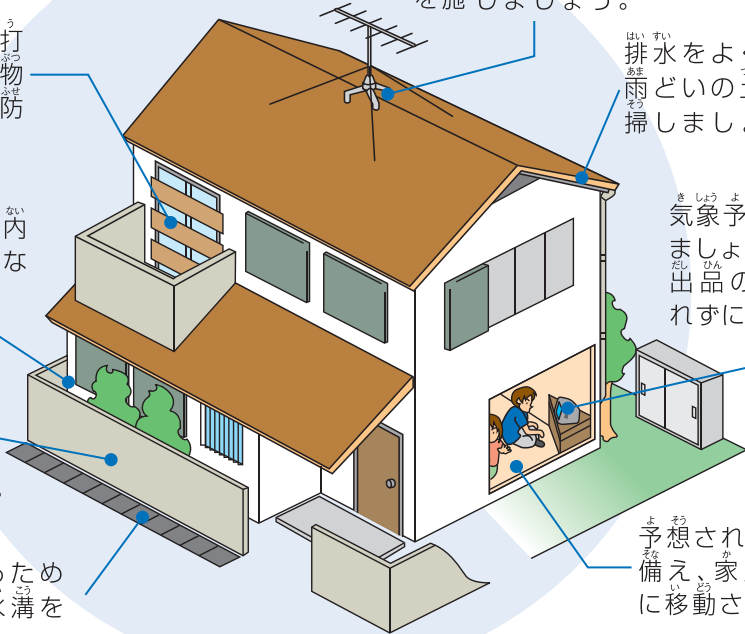
排水をよくするために定期的に排水溝を清掃しましょう。

不安定なアンテナは、支線を張るなど、補強を施しましょう。

排水をよくするため雨どいの土などを清掃しましょう。

気象予報に注意しましょう。非常持出品の点検も忘れずに。

予想される床上浸水に備え、家財道具は2階に移動させましょう。



こんな前ぶれに要注意!!

雨が降り続けているのにも関わらず、川の水位が下がります。川の流が濁っている場合も危険です。



Should be cautious when a river has muddy stream or its water level dropped in a long rain.

家の周りが浸水します。



2階でも危険な場合は、安全な場所に避難を。

5.0m未満でも、家が破壊される恐れがあります。

2.0m未満の浸水では、1階の軒下が浸かります。

50cm未満では、大人のひざが水に浸かります。

もしも洪水が起きたら...



水位の確認

歩ける深さは膝の高さまでです。無理に避難はせず、安全な高所で救助を待ちましょう。

足元に注意を払う

洪水で避難する際は、裸足や長靴は禁物。紐で締められる運動靴と長い棒を用意しましょう。



子どもから目を離さない

お互いの身体をロープで結んで避難しましょう。子どもが一緒の場合は、目を離さないように。

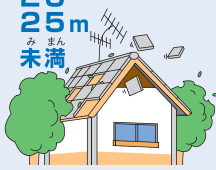
風の強さと被害の程度

15~20m未満



風に向かって歩くことができず、転倒する人も出てきます。

20~25m未満



シャッターが壊れたり、飛来物で窓ガラスが割れたりします。

25~30m未満



立つことが難しいほどの強風です。屋外での行動は避けましょう。

1時間の雨量と降り方

10~20ミリ未満



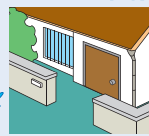
地面からの跳ね返りで足元が濡れます。

20~30ミリ未満



地面一面に水たまりができます。

30~50ミリ未満



道路が川のようになり、避難の準備が必要。

50~80ミリ未満



土石流など、多くの災害が発生します。